

探訪 チャレンジ企業 7

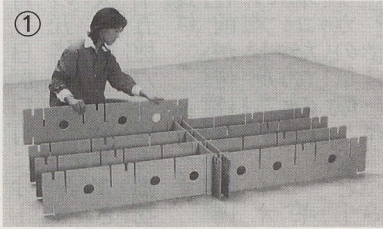
時代の要請に常識を打破 寺井町・有限会社 前田ケース



常識、それは打破されてこそ進歩がある。常識が常識として世間一般に通用されている限り、変化や進歩がない。段ボール箱というイメージが定着している中で、段ボールのベッドとは「そんなものできるのか」という疑問が第一。続いて「すぐ潰れてしまふんじゃない」という疑問が湧いて当然である。従来のイメージで常識を打破し、段ボールのベッドを企画立案、大手企業と共同開発したのは、寺井町大長野にある有限会社前田ケースである。

同社の特色

同社は、九谷焼を入れる箱から出発し、贈答用酒箱、高級感ある段ボール製お重等「パツケー」は文化を入れる器というテーマの基に、各種容器づくりに取り組んで来た企業である。その結果「段ボールでもできる」という発想と自信が社長前田正太郎さん始め営業部長の悦男さんに醸成され、チャレンジ企業として成長の道歩むことになったのである。



段ボール製ベッドの発想

段ボールのベッドを企画した起点となったのは介護用品にある。寝たきり老人が使用したベッドは、不用になると誰も使用せず殆ど廃棄されるという。余りにも資源を無駄にし過ぎる現状より、廃棄しても決して惜しくないものを作ろうという一念が、段ボール製のベッドとなったのである。段ボールは天然素材であり、資源節約型素材で、廃棄しても環境に優しく、加工に

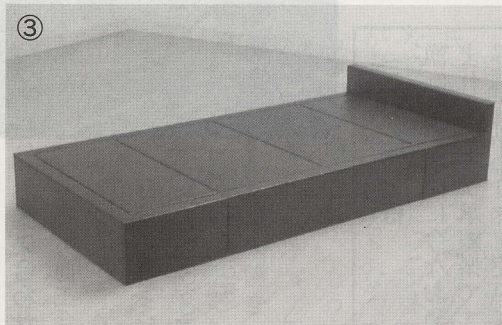


よつてかなりの重圧に耐える等の特色があり、この特徴を十分活かしたのである。

製品から商品へ

製品はできて売れない限り商品とならない。段ボール製ベッドが商品として売れ始めたのは、寝たきり老人より

も学生や単身赴任者であり、更に災害時の緊急用器具としてである。現にコソポへ緊急輸送され、第一陣発送に多忙を極めたのである。これは、ベッドとしての要件を満たしている



①②③の組立により5トンの重さにも耐えるダンボールのベッドが完成。

上に、組立式であり、全重量十五キロという軽量で持ち運びに便利なこと、価格が安価であること等が、消費者ニーズに合致したということである。

大手企業との結びつき

成功要因の一つに大手企業との結びつきがある。これが可能となったのは、経営者の人柄と平常からの経営に対する姿勢にある。結び付きの縁をとりもつたのは、悦男さんが以前勤めていた会社の従業員で悦男さんの今も変わらぬ友情・人柄が、かかる縁をもたらしたのである。しかも旺



段ボールのベッドを企画・立案した前田悦男営業部長

盛なチャレンジ精神と意欲的で素速い新製品取組み行動は、大手企業にないものであり、一方大手企業の優れたノウハウは、会社にとって貴重なもの、ここにお互い補完し得る良き関係が生れ、成功したのである。

企業は時代の要請に乗り応えてこそ生き残るのである。同社は見事このことを実践したのであり、石川ブランドづくりにふさわしき企業といえる。

(お問い合わせ)
有限会社 前田ケース

能美郡寺井町大長野へ一七〇

TEL(〇七六一)五七一〇〇〇

FAX(〇七六一)五八一五五三三

<http://www.case.co.jp>

◆営業品目◆

- ・ パッケージデザイン／企画立案
- ・ 紙加工製品
- ・ お重ケース・おせち箱の企画・製作・販売
- ・ 貼箱(ギフトケース)

この新コーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会をお訪ねください。